

# 広報イキシア61号

2013年1月1日発行

イキシアには「団結して事にあたる」という花言葉があります。やっとな関心を集めるようにこの精神保健の分野に理想の福祉を実現する為にあなたの知恵と力をお貸しください。

## 『制度改正～対応の視点』

理事長 寺田一郎

ワナーホームは、柏の作業所から数えると今年で三十四年を経過することとなります。先日、ある入居者の方が古い新聞記事を職員に渡してくれました。その見出しは『精神障害者に訓練ホーム』（朝日新聞）、二十九年前のホレブ寮開設を伝える記事でした。今までその切り抜きを大事に持っていて下さったことに感激します。以前は茶色に変色した切り抜きを持って訪ねて来られる方も時々ありましたが、今では、現状の施設と職員を見て利用を決める方のほうが多いように思えます。利用されるご家族の思いが創業当初とは違って来たということでしょう。スタートした時の理念がどれだけ実現できたのだろうか、とも思います。

私も第一線に立てる時間が少なくなってきたことを実感しています。これからの私の役割を一言で言えば、運営基盤を固めることです。職員の意識や技術、精神障害における専門性、地域との関係性、事業と職員の社会性等です。近年は、十分な準備もできないまま必要に応じて事業を拡大してきました。今、気にかかっていることは、茂原市の相談支援事業と就業・生活支援センター。柏市のたんぽぽセンターとわたげワークス。いすみ市の就業・生活支援センター。中核地域生活支援センターは千葉県全体で在り方を検討すべき段階にきています。これらの出先事業所は職員たちの孤軍奮闘で支えられてきました。職員がだんだんと育ってくれていることは実感できますが、組織的なバックアップの必要があります。

また、事業展開に職員の供給が追い付かない状況もありますので、法人としての事業編成についての再検討も必要になっています。相談支援事業は今後、急激な計画相談の増加に対応する必要があると同時に、相談だけでは運営が不安定ですので、通所系の事業と併設するなどの工夫が必要になっています。地域社会からの要請、職員の資質の確保などを基準に再編成を検討することになります。

昨年は、四月に新相談支援体制がスタートしました。この影響については、前号でも触れましたが、相談支援事業者と利用者に顕著に現れてきました。千葉県精神障害者自立支援事業協会が夏から秋にかけての調査結果を見ると、人口六二〇万人

の千葉県では、市町村の計画相談予定数は平成二十四年で六六〇〇人、平成二十五年は一三六〇〇人、平成二十六年で二一六〇〇人となっています。市町村のざっくりとした予定数ではありますが、今後、対象者が急速に増えて行くことが想像できます。後は、この予定数に対応できる事業所と相談支援専門員の育成と、ケア計画（サービス等利用計画書）の妥当性のチェック体制作りなど重要な課題が残っています。

十月には障害者虐待防止法が施行され、全国の市町村に虐待防止センターが設置されました。同法は、養護者、障害者福祉施設従事者等、使用者による一定の行為を「障害者虐待」と定めています。問題は、虐待している側にその自覚がないこと、虐待を受けている側には自分のされていることが虐待だと認識できないことや被害を訴えられないことがあります。さらに虐待はどこでも起きる可能性があるということです。

施設を運営している者としては、あってはならないことですが、精神障害者の生活支援の場では身体的虐待のみならず心理的な虐待とすれすれの場面があります。判断が難しい上に、妄想が加わったらややこしいことになります。職員ひとり一人が互いに意識し合うことが大切だろうと思います。

法の施行日である十月一日付けの新聞で、千葉県南房総市の精神障害者グループホームに入所している女性がホーム内で虐待を受けたとして届け出がされたことが報じられました。虐待防止法の適用第一号だろうと思います。

本年四月には、障害者総合支援法が施行されます。目まぐるしい制度改正に加えて様々なことが起こるのが世の常ですが、ワナーホームの原点を忘れずにいたいと思います。ワナーホームの事業では、居住施設、通所施設（日中活動）がありますが、基本的な要素は、障害者が互いに助け合って生きる場所であるということです。心ならずも障害をもった人たちが互いに助け合いながら共同で生活するところこそ、その存在意義があります。職員はその環境を支えるという役割を意識し続けてくれることを願っています。

## 新年のあいさつ 2013 賀正

### ★三好恵里子

障害者自立支援法になってから一年が経つのが早いこと、早いこと。もう新年です。急速に歳をとってしまいそうです。

昨年は、居宅介護事業「ヘルパーステーションそら」の立ち上げと相談支援の充実に力を注ぎました。

地域で生活する方にとってアウトリーチ（訪問）の重要性を感じての居宅介護事業の開始でしたが、徐々に利用者が増えています。生活を支えることで、地域でみなさんが望む生活を続けられればと思います。

相談支援では、福祉サービス利用者にサービス利用計画書を作成する「計画相談」が始まり、法人の相談員を総動員して計画書作成・モニタリングにあたりました。計画書を作成するには、その方を知り、関係づくりをしなければなりません。モニタリングも同様です。簡単なことではなく、何回もご自宅や通所先に足を運び、時間がかかる作業です。相談だけではなく、福祉サービスでは補えきれない対応をすることやご家族への支援を行うことも数多くありました。

そして、法人がこれまで支援してきた精神障害者だけではなく知的障害者、身体障害者あるいは発達障害の方との関わりも多くなっています。私たちができることをできる限りおこないお役にたてればと思いますが、職員が倒れないかも心配です。障害福祉分野では支え手の数が不足しています。地域の障害福祉全体をパワーアップさせる必要性も感じています。

今年四月に法律は、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）に変わります。総合支援法に変わり、来年末には、『一年が経つのが遅くなった〜』と感じられるようになることを祈りつつ、新年を祝いたいと思います。今年もよろしくお願いいたします。

## ★吉井稔

あけましておめでとうございます。

昨年は、政治の混乱や不景気など、不安になることが多く、今年もどうなってしまうのだろうかと考えてしまいます。政権に左右されやすい福祉業界で仕事をしていると、自分の生活も不安になります。

しかし、私たち自身の身近なことをどうにかしようと思うと、案外「自分次第」ということが多くあると思います。

「仕事に行きたくない」と思っている、仕事が終わったら自分にご褒美のお菓子を買おうと思うことで、なんとなくテンションが上がったり、「最近いいことがない」と思っている、実は好きなものを食べていたり、好きなジュースを飲んでいたり、買いたかった服を買っていたり…。ありふれた日常をよく見てみると、結構好きなことが出来ているのだと気づくことがあります。自分で意識的に考えて実行することで、何気ないことも意味のあるものになります。

そう考えると、日々の支援においても、私たちが行う言動の一つ一つの意味を考えて支援することが大切なのだと思います。これから始まる1年間をそう考えて仕事をしていくと、きっと今より良い支援に結びつくはずですよ。

さんぶエリアネットに寄せられる相談の傾向として、貧困生活からなかなか抜け出せない方の相談や社会的に孤立している方からの相談が多くなっています。その方々にも、日々の生活を一緒に見つめていながら、少しでも明るい日常が見いだせるような支援に心がけていきたいと思っています。

今年も変わらぬご支援、ご協力の程宜しくお願い致します。

## ★山岡功平

みなさん、初めまして。昨年四月にワーナーホームに入り十月から長生地域生活支援センターの所長を務めている山岡です。こちらでは前年度までと同様の地域生活支援センター業務に加えて、四月から本格的に稼働し始めたサービス等利用計画の作成(障害者ケアマネジメント)という重要な業務が加わり、身体がいくつあっても足りないくらい忙しい日々を送っています。着任して三ヶ月ですので、ようやく地域の関係機関の皆さんにも存在感を示すことができ始めたかな、と感じています。

十四年前、神奈川の地で精神障害者生活訓練施設を新しく開設するための見学で大網を訪れて、ワーカーが主体となり先駆的に創造して精神障害者の地域生活を支えている当法人の実践に感銘を受けて以来、折にふれ大網を訪れては理事長や三好さんたちから新しい事業展開の話をお聴いたり、共に全国組織の活動に参加したりしたものでした。居を千葉に移しワーナーホームに勤める事が決まった時は、その責任の重さを実感すると同時に今までずっと目指して来た法人に加われる念願がかなった喜びがありました。

ワーナーホームの最大の魅力はワーカー主体で事業を創造して実践していけることだと思います。(そこには重大な責任が付いてまわるのですが。)職場の仲間も(以前の職場とは比べ物にならない程実は大勢いる)若いワーカー達です。若い仲間たちから話を聴いて、よい支援を提供していこうと思います。

長生圏域に、新しい日中活動の場の創設が必要だという意見が現在まとまりつつあります。今年は早速その実現に向けて、現場の職員と、そして当然利用者さんからも意見を聴いて取り組んでいこうと思っています。みなさん、これからどうぞよろしくお願ひいたします。

## ★高木由佳

新年あけましておめでとうございます。

ワークショップしらさとは、精神保健法の初年度、昭和六十三年に精神障害者の社会復帰施設として建設の認可を受け、社会復帰施設の第一期生として、平成元年に精神障害者通所授産施設として開所いたしました。平成七年には、精神保健福祉法が施行され、平成十九年には、障害者自立支援法に基づく、就労移行支援事業と就労継続支援B型事業の多機能事業所に移行し、開所から二十五年目の年となります。

開所当時は、ホレブ寮入居者の日中活動的な作業所でありましたが、現在は、登録者の七割は地域(ワーナーホームの入居施設以外)からの通所者となりました。また、最近では、知的障害や身体障害、発達障害の方の利用が増えつつあります。作業内容も見直され、現在は、作業グループ、農園グループ、軽作業グループとなり、

昨年は、新たに企業から芝生の年間管理の請負や野菜のパック加工の作業が増えました。利用ニーズも多く、受け入れの職員体制や支援のスキルアップ、作業量の確保など、次々と課題が出てきました。また、利用者にとってやりがいを感じ、訓練要素を兼ね備え、そして、工賃がアップするような作業を得るにはどうしたらよいか、現在の作業内容がベストなのか、一人ひとりのニーズを的確にとらえて支援していくにはどうすべきか等、あらゆる視点で疑問を持ち考えて行動できる職員でありたいと思います。

ワークショップしらすとの四半世紀の歴史に、また一年を積み重ね、利用者と共に作業を通し、個々の目標、課題に向かって全力で進んでいきたいと思います。

二〇一三年が皆様にとって素晴らしい一年になりますよう、心からお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

### ★大久保夏樹

新年あけましておめでとうございます。こうしてまた新しい一年を迎え、みなさまにご挨拶させていただけることに感謝いたします。

#### 二〇一二年柏拠点の動きと二〇一三年の課題

柏拠点では、相談支援体制の変更により、相談件数が急増し、サービス利用計画の作成 44 件、地域移行支援 4 件、定着支援 1 件の実績になりました。これは 2010 年度までのサービス利用計画作成件数 4 件に比較すると、いかに急激な変化であったかわかりいただけるかと思います。それに伴い、地域に相談という言葉が浸透し始め、サービス利用計画の対象とならない相談件数も増加しています。これからの課題は、相談員の養成と柏地域での相談システムの構築です。基幹型相談支援センターの設置と委託相談事業所とのネットワーク構築に向けて、市との協議を行いながら、障害のある方よりどころとなる相談支援の体制を作っていきたいと思っています。

また、二〇一〇年のわたげワークス設立に引き続き、わたげワークス増築工事が始まりました。初めてのパン屋さんのお仕事に奮闘した設立初年度を経て、カフェスペースと食堂スペースの増築を行っています。この増築により、より幅広い障害のある方にお仕事の間、地域の方の憩いの場を提供できる事業所として成長していきたいと思っています。

そして二〇一三年夏には、わたげワークスで工賃を得た利用者の次のステップとして住まいの場、医療と地域を結ぶ訪問看護など新しい展開が計画されています。これまでの法人の実績がある大網の地とは異なり、柏市では小さな事業所の大きな挑戦です。地域に根差した事業所となれるよう、職員一同力を合わせていきたいと思っています。

二〇一三年も、みなさまおひとりおひとりにとって、素敵な一年となりますように。

## 第二十回みんなのまつり

十月二十八日(日)に「第二十回みんなのまつり」を開催しました。天候が危ぶまれる中、小雨が振る程度でまつり自体に大きな影響はありませんでした。利用者・ご家族の皆様、関係機関、そして地域住民の方々など総勢六百名の方に参加頂きました。

盛り上がりを見せたステージ発表、盛大な賑わいを見せたバザー・模擬店販売、ワーナーホームの歴史を紹介したミュージアム、ふれあいの機会となったフレンドリーコーナー等々、様々なプログラムで皆様には楽しんで頂けたと思います。

職員・利用者・ボランティア等みんなで作り上げた、とても素敵なまつりでした。みんなのまつりが今後もワーナーホームと地域の架け橋の一環となればと思います。(上野)



## ソフトバレーボール

ワーナーホームのソフトバレーボールチーム、「ワーナーズ」が、九月二十六日に行われた千葉県精神障害者スポーツ大会に参加しました。

大会直前までなかなか選手が集まらず、チームとして不安な状態での出場でした。しかし、一回戦で袖ヶ浦さつき台病院のダンデライオンズとの対戦し、一セット目十四対十五、二セット目十五対十四と大接戦。三セット目で一対十五と大差で負けてしまいましたが、気の抜けない試合展開となりました。

大会後も月に二回の練習を継続して行っています。みんなで体を動かすことの楽しさを大切にしながら、団結力をつけいきたいと思います。

練習に興味がある方は職員までどうぞ！お待ちしております。(古市)



## 実習体験

(医療法人社団楠目会 介護老人保健施設 施設長 楠目信三氏)

※精神保健福祉士資格取得のために、援助実習された楠目さんです。

この度の実習につきましては、ひとかたならぬお世話になり、心から感謝いたしております。本当にありがとうございます。おかげさまで、今まで疑問に思っていた精神障害者の方々に対する接し方等を拝見し学ぶことができました。

一日目は、就労継続支援事業A型を退職するMさんに同行しました。Mさんは六ヶ月位就労していましたが、本人の問題以上に会社側の問題がいくつも有り、辞めざるを得ない結果となりました。会社の問題についてはナカポツセンターが直接介入できない分野もあり、なかなか難しい所です。

二日目は、パンプキンハウスでの自立訓練にてクッキングのお手伝いをしました。その際、職員が利用者さんに対し必要な事は間髪を容れずに注意、アドバイスする姿勢には感銘いたしました。期限のある生活訓練系では、ただの居場所にならぬ様、一定の目標を持って接していく必要性を実感しました。

三日目は、役場に就労継続支援B型の申請の為、Nさんに同行いたしました。その後、自宅に伺い母親にもご挨拶しました。母親自身も脳梗塞等を患っており、場合によっては母親にも支援の手を差しのべる必要性があり、支援は当事者のみならず回りの人にも思いをはせることが重要であることもわかりました。ジャガイモ梱包の作業では、その工賃の安さにビックリしました。

四日目は、作業グループの方々と外部へ雑草除去の為、同行いたしました。作業自体はかなり辛かったです。参加している方は運動能力、社会適応が高いと思われ、会話もさほど違和感を感じられません。なぜ、一般就労につながらないのか不思議に思えました。

五日目は、認定調査に同行しました。本人は人見知りする為か、すぐに席を立ちましたが、質問に対しては主に母親が答えていました。しかし、話す内容の大半は以前通所していた作業所に対する不満、意見で、特に作業所の職員の自分たちに対する対応の在り方についてはかなりのご立腹でした。これに対して職員は今回の訪問

はあくまでも認定調査の為であることを伝えていました。知的・精神障害者とそのご家族がいかに厳しい立場におかれているのかを目の当たりにした思いです。

今回は、十二日間の実習で印象に残ったエピソードを述べさせていただきましたが、施設の目的、作業や活動に積極的に関わり共に活動する。利用者さんとよく話をし、個人の目当てを理解する。一人一人のストレングス、良い点に着目し、それぞれが持っている力を発見することに主眼を置きました。

職員と共に活動し、その指導方法を学び取り、施設職員の立場だけでなく他方面の専門職の立場からも見れる様、一人の利用者さんに対して多方面から考えられることの大切さを知りました。利用者さんやご家族の願い、思いに心をはせ、個々に応じた支援がと、地域と施設との関わりについて考え、障害のある人々が地域の中で生き、生活していく為には、どのような支援が必要なのかを考える一助になりました。最後に、職員のご健勝をお祈りします。ありがとうございました。

## 実習体験

(有限会社アリブモア鶴岡伸茂氏)

※高齢者の訪問入浴を行っている会社が 12 月よりグループホームを開設するにあたり障害者支援の勉強のため実習をされました。

八月一日から十月十日まで、約二ヶ月に渡りワーナーホームで実習させていただきました。私は、介護の仕事をしており、今までは、できない部分のお手伝いをすることがあたりまえとしてきました障害をお持ちの方なら、一層お手伝いが必要になるだろうと思っていました。ホレブデイサービスセンター(生活介護・自立訓練)、ワークショップの体験し、利用者とのふれあいの中で、考えて話すことがなくなりました。一人一人ペースは違いましたが、皆さんの笑顔、頑張っている姿、きちんとした挨拶、そんな日常生活に触れ、介護とは違う一面を知りました。そして対応の仕方も学びました、各事業所で働いている職員の皆さんの的確な判断と無駄のない動き、忙しい中でもゆとりのある話し方をされるのに驚きました。どこ事業所に行ってもすべての職員が利用者のことを知っている、どの職員さんに聞いても情報が得られる、なぜ？興味を持ちました。その答えは、プロフィールの中にありました。利用者が関わるすべての事業所にその方のプロフィールがあり、個別支援計画がなされ、すべての職員が目を通せるような管理と毎日の記録。そして申し送り、その場になかった、違う事業所の職員にも確実に伝わっている、そして決まり事ではなく職員すべてが必要としていることだと感じました。私も利用者として毎日顔を合わせ、挨拶を交わし日常会話ができるようになると、利用者をもっと知りたいと思うようになり、生活歴・病歴・職歴など最近の変化を確認するようになりました。各居宅訪問に同行する中で、利用者のどこを見る必要があるのか、表情の変化や仕草、昨日との変化などに目が行くようになりました。昨日はあんなに元気だったのに今



日はどうしたのだろうか？そんな疑問を抱き、質問したことがありました。職員の答えは一貫していました。

病気について、過去の問題について、その方の強み、弱み傾向など、どの職員も迷いもなく答えて下さり、ご利用者に対する深い洞察力と愛情を感じました。

私も職員のような支援員になりたいと思いました。そのためには気持ちだけではなく、正しい知識と経験が必要です。そして、地域で活動し、障害に対する理解が得られるように努力することが、与えられた使命であると感じています。これから、制度や法律など、学ばなければならないことは沢山ありますが、それでもやりたいと思える仕事に出会えたのは喜びです。まだ経験も浅く知らない現実も沢山あると思います。でも私には支えてくれる仲間がたくさんできました。お忙しい中丁寧に指導してくださいました全ての職員の皆様に心よりお礼申し上げます。毎日訪問しても、笑顔で受け入れて下さった利用者のみなさん、本当にありがとうございました。みなさんの笑顔は私の原動力です。

## WANAHOME旅行記

### 大洗水族館

たんぽぽセンター・わたげワークス合同のイベントのバスハイクで「アクアマリン茨城県大洗水族館」に行ってきました。

当日は季節外れの台風の影響であいにくの雨模様。しかし、現地の見学中は雨もほとんど降らず快適でした。

水族館では、沢山のエイやサメを見たり、他ではなかなか見られないマンボウが泳ぐ姿、水族館なのに「カピパラ」が見られたりと面白かったです。一番のハイライトは、「イルカとアシカショー」ダイナミックなイルカのジャンプに歓声を上げたり、アシカの可愛い仕草に笑い声が出たりと皆さん楽しまれていました。

「楽しかった」「イルカがすごかった」「いろいろ見ることができて良かった」と大好評でした。(佐藤)

### 横浜中華街

九月二十八日、利用者六名と、「横浜中華街食い倒れツアー」に行ってきました。利用者と一緒に計画を立て、電車やバスを利用しての旅です。

当日は、食いしん坊の面々が勢揃い。意気揚々と、横浜中華街に乗り込みました。マップを片手にキョロキョロ、中華街は平日とは思えないほど人が多く、試食を呼びかける店員の多さに圧倒されっぱなし。でも、美味しそうな試食は、ちゃっかりゲットです。昼食は、中華バイキングで舌鼓。年齢のせいか、はたまた試食を食べ過ぎ

たせいなのか思ったほど食べられず、食いしん坊の皆は、リベンジを誓い合っていました。帰りの電車では、笑みを浮かべて夢見心地。何はともあれ、満腹、満足な旅でした。(小笠原)



## 東京スカイツリー

九月二十七日、利用者二十一名と職員六名で東京スカイツリーへ行って来ました。当日は天候にも恵まれ、初めて目にする大きな東京スカイツリーにどの利用者也目を輝かせていました。地上から見上げるスカイツリーは迫力があり、利用者の心に印象強く残ったかと思えます。

また、プラネタリウムも鑑賞し、ゆったりとした時間の中で星空を眺めました。初めての感覚に驚く利用者もいましたが、目の前に広がるきれいな星空に魅了されとても楽しそうでした。体調不良者も出ることなく、笑顔での帰寮に一日の充実感をみることが出来ました。「また行きたい」との嬉しい声が多く、皆で楽しい思い出を作ることが出来たと思えます。(寺園)



## 鴨川シーワールド

秋レクで、鴨川シーワールドへ行って来ました。行く途中でお昼に、マグロがたっぷり乗った鉄火丼を食べました。あまりの量にみんな驚いていました。また鴨川シ

ーワールドでは、シャチやアシカのショーを見たりおみやげを選んだり、満喫することが出来ました。参加した人たちからは、「楽しかった。」と満足の声が多く聞かれました。

ワークショップしらすとでは、利用している方たちが、自分の目標に向かって日々様々な作業を行い頑張っています。そんなみんなにレクを通して、普段の作業から離れてリラックスできる時間や、仲間と思いきり楽しむ時間を過ごしてもらえるように楽しい企画を今後も作っていきたいです。(飯田)



## 千葉市動物公園

九月二十七日に日帰り旅行で「千葉市動物公園」行って来ました。昼食はイタリアンバイキングでの食事です。タッチパネル方式のピザやパスタの食べ放題で、注文すると出来立てが出てくるので、とてもおいしく、参加者にはとても好評でした。残暑で屋外の移動は大変でしたが、動物公園では、頑張って移動し、ゴリラやチンパンジー、ペンギンも見ました。また、二本足で立つアライグマで有名な風太君一家も見ることができました。観覧車にも乗り、千葉市を一望しました。空気が澄んでいる冬の晴れた日などは富士山も見えるそうですが、残念ながら霞がかかり、見る事は出来ませんでした。おみやげも買って、楽しい一日を過ごせました。



## 箱根旅行

だいち利用者間・利用者と職員間の交流を目的に一泊二日の旅行を行いました。今回は紅葉が楽しめる箱根に決定。初日はガラスの森美術館で工芸品を見学。数々の装飾品の輝きに利用者も感動していました。旅館では美味しい食事と温泉です。美味しい料理にお互い会話も弾みました。二日目はすすき草原であたり一面スキの世界を体験。幻想的な世界に利用者も驚きを隠せなかったです。箱根スカイラインでは間近で富士山、芦ノ湖、紅葉を見ることができ、開放感あふれる景色に大喜びでした。

今回の旅行を通して、かけがえのない時間を過ごす事ができ、利用者・職員の共有できる思い出となりました。(大竹)



## 2013年1月1日大網白里市になりました！

「大網白里」の名称は、昭和29年12月に2町1村(大網町・白里町・増穂村)が合併し、「大網白里町」が誕生しました。人口5万人を超えたことで、千葉県下37番目の市として「大網白里市」が誕生しました。

## ワーナーホームの主な動き

### 【九月】

- ・秋しく(鴨川シーワールド)～ワークショップしらさと
- ・食い倒れツアー(横浜中華街)～ホレブデイサービスセンター(自立訓練)～
- ・合同日帰り旅行(東京スカイツリー)新ホレブ・ケアホーム第一・ケアホーム第二
- ・バーベキュー～たんぽぽセンター～
- ・千葉県精神障害者ソフトバレーボール大会(千葉ポートアリーナ)

・ロザリオ福祉まつり出店販売～ワークショップしらさと～

#### 【十月】

・第二十回みんなのまつり

・十枝の森の小さな音楽会(十枝の森)～新ホレブ・ケアホーム第一・ケアホーム第二～

・シナリーの里「秋まつり」出店販売～ワークショップしらさと～

・バスハイク(大洗水族館)～たんぽぽセンター・わたげワークス～

・昭和の森へ行こう(昭和の森)～長生地域生活支援センター～

・NPOペイフォワード歩論館交流会～ワークショップしらさと・ホレブデイサービスセンター～

#### 【十一月】

・JIUフェスティバル(城西国際大学)出店販売～ワークショップしらさと～

・九十九里福祉ねっとまつり出店販売(いずみの里)～ワークショップしらさと～

・心の健康フェア 2012 in ちば出店販売(青葉の森公園芸術文化ホール)～ワークショップしらさと～

・二〇一三(平成二十四)年度 ケアマネジメント力向上研修「高齢者・障害者のケアマネジメント」～両分野におけるケアマネジメントの活用方法について理解を深めよう～(山武市のぎくプラザ)～さんぶエリアネット～

・グランドゴルフ大会(柏ふるさと公園)～たんぽぽセンター～

・やまもも祭出店販売(千葉県東金特別支援学校)～ワークショップしらさと～

・土気シビックウィンドオーケストラ第十回ファミリーコンサート(東金文化会館)～新ホレブ・ケアホーム第一・ケアホーム第二～

・箱根温泉一泊旅行～だいち～

#### 【十二月】

・異世代交流こどもフェスタ出店販売(いずみの里)～ワークショップしらさと～

・紅葉狩り(養老溪谷・大多喜城)～ホレブデイサービスセンター(自立訓練)

・こころの健康フェア 2012 出店販売(山武健康福祉センター)～ワークショップしらさと～

・外出企画(大多喜城)～長生地域生活支援センター～

・クリスマス会(ブリオ憩いの場)～長生地域生活支援センター～

・クリスマスパーティー～たんぽぽセンター～

・クリスマス会

・忘年会～ワークショップしらさと～

## 会費・寄付をくださった方々

平成二十四年八月～平成二十四年十一月

《寄付》

村松正敏・登希代会・(株)徳倉  
渡辺すみ子・萩原衛・宮間文夫  
中村美穂子・木村勲・平戸晴子  
宮負栄・牧野和夫・小川由美子  
八巻哲雄・小倉さん・鈴木直人  
大網白里町社協 白里支部  
大網白里町社協 瑞穂支部  
(有)中村自動車・久保田文造  
(株)眞起工業

《イキシア会員》

〈正会員〉

森敏 幸・杉山優子・山口知子  
沼尻 亨・田中修一・中川昌美  
師井保博・竹原裕征・津村 旭  
海上寮療養所

〈賛助会員〉

石井マルコ・阿部昌子・金川洋  
中西小夜子・遠藤雅子・泉容子  
大串晃代・佐藤繁夫・杉田輝彦  
宇野良子・小嶋哲夫・中島達友  
熊澤喜久子・本城静江・村井誠  
成島麻子・渋谷鋤・柴崎美枝子  
匿名希望・西田佳子・湯浅正純  
前原幸雄・細矢正則・岡部芳子  
土屋美智子・根本芳枝  
(順不同・敬称略)

## イキシア会入会のお願い

イキシア会は、利用者とそのご家族及び一般有志からなるワナーホームの支援団体です。活動をご理解いただき、ご支援・ご協力お願いいたします。

賛助会員 三千元(年)、正会員 一万元(年)

## 編集後記

新年あけましたおめでとうございます。2012 年を振り返ると、新しいグループホームの立ち上げに携わり、開所になったことが一番の出来事で自分が成長したと感じます。

今年は、どんな年になるのかとワクワク・ドキドキです。充実した一年にしたいと思います。

今年も、イキシア会をよろしく願いいたします。

発行所  
ワーナーホーム イキシア会